

富士ダイス株式会社

2021年3月期 第2四半期決算説明



Copyright © Fuji Die Co., Ltd. All Rights Reserved.

目次

FUJILLOY

	page
I : 会社概要	2
II : 当社の特長	6
III : 2021年3月期 第2四半期 業績概要	14
IV : 2021年3月期 業績見通し	20
V : 成長戦略（中期経営計画）	24
VI : 参考資料	32

I :	会社概要	2
II :	当社の特長	6
III :	2021年3月期 第2四半期 業績概要	14
IV :	2021年3月期 業績見通し	20
V :	成長戦略（中期経営計画）	24
VI :	参考資料	32

Copyright © Fuji Die Co., Ltd. All Rights Reserved.

2

会社概要

FUJILLOY

会社概要

商号	: 富士ダイス株式会社	創業	: 1949年6月
所在地	: 東京都大田区下丸子2-17-10	設立	: 1956年4月
資本金	: 164百万円	事業目的	: 超合金製の耐摩耗工具・金型の製造・販売
代表者	: 代表取締役社長 西嶋 守男	従業員数	: 1,155名（2020年3月期末、連結）

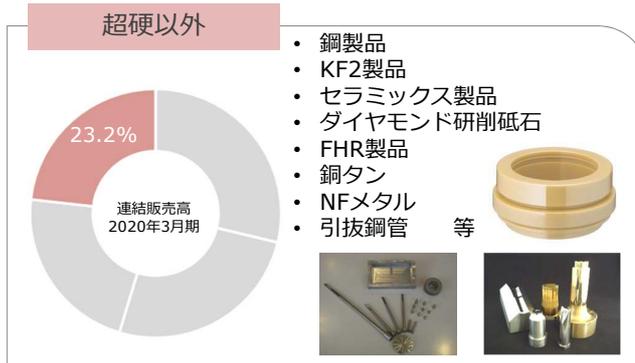
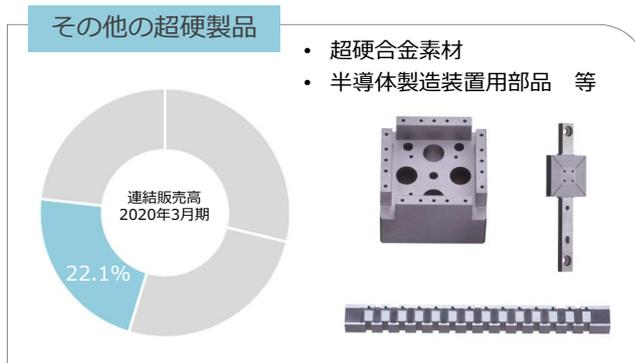
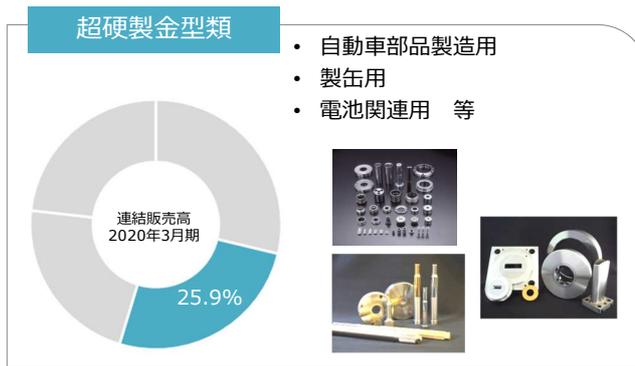
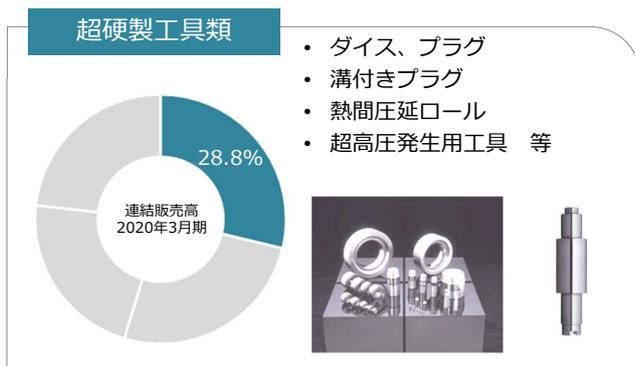
拠点（2020年9月30日現在）



Copyright © Fuji Die Co., Ltd. All Rights Reserved.

3

■ 超硬合金製を中心とした工具・金型（耐摩耗工具）製造に特化



Copyright © Fuji Die Co., Ltd. All Rights Reserved.

様々な製品の製造工程に用いられる

■ お客様の製造工程における生産性（加工速度や精度）向上に直結する超高精度の工具・金型を提供



Copyright © Fuji Die Co., Ltd. All Rights Reserved.

	page
I : 会社概要	2
II : 当社の特長	6
III : 2021年3月期 第2四半期 業績概要	14
IV : 2021年3月期 業績見通し	20
V : 成長戦略（中期経営計画）	24
VI : 参考資料	32

当社の特長 ハイライト

POINT1

超硬耐摩耗工具業界で長期に亘り**国内トップ**

POINT2

受注生産・直販体制、**全国をカバー**するネットワーク
取引先は約**3千社**、**業種も多岐**に亘る

POINT3

一貫生産体制により様々なオーダーに柔軟に対応

POINT4

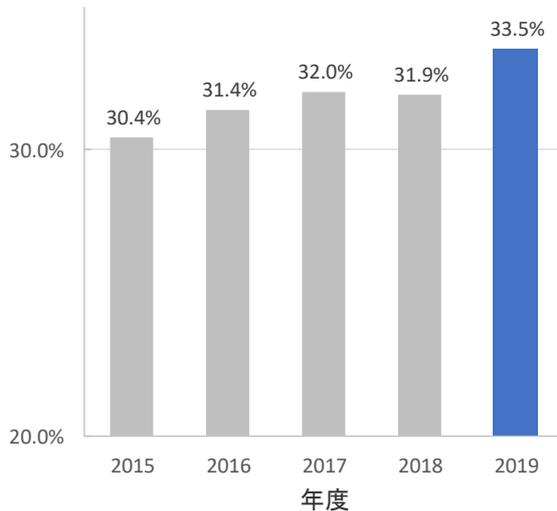
開発力-生産技術力-営業力が競争力の源泉

POINT5

堅固な財務基盤

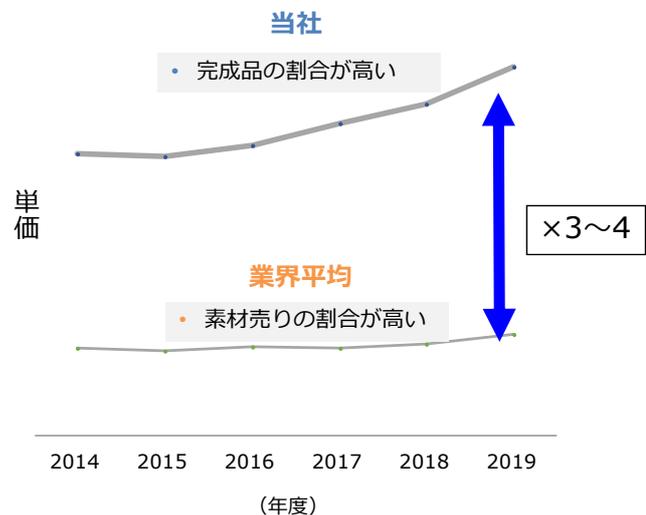
- 国内超硬耐摩耗工具業界で当社は**長期に亘り**、**トップシェア（30%超）**を堅持
- 少量多品種の**高付加価値製品**の販売が主で、販売価格は**安定して推移**

超硬耐摩耗工具・国内出荷額シェアの推移



出所：日本機械工具工業会

製品の平均単価の推移



Copyright © Fuji Die Co., Ltd. All Rights Reserved.

8

- **業界最大**の約100名の営業員による**直接販売網**を構築
- メンテナンス（修理・再研磨）により**高いリピート率**を実現

拠点網（2020年9月30日現在）

主要生産拠点 7ヶ所

郡山、秦野、名古屋、大阪、岡山
熊本、新和ダイス（山梨）

営業拠点 13ヶ所

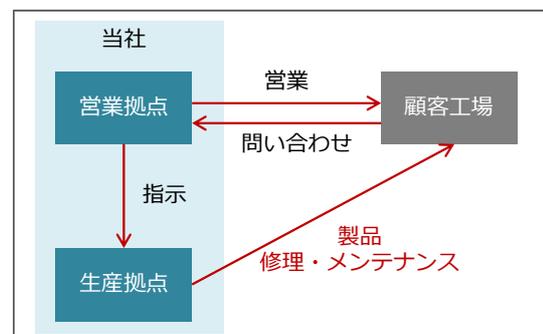
郡山、埼玉、秦野、栃木、東京
岡山、大阪、名古屋、北陸
熊本、北九州、本社（海外事業管理部）
富士シャフト（福島）



※2019年8月に門司営業所を移転し、北九州営業所として業務開始

顧客との強固なネットワーク

- リレーションを強化することにより、顧客の要望に対しタイムリーに対応
- 顧客の生産効率アップに繋がる提案が可能



顧客ニーズ

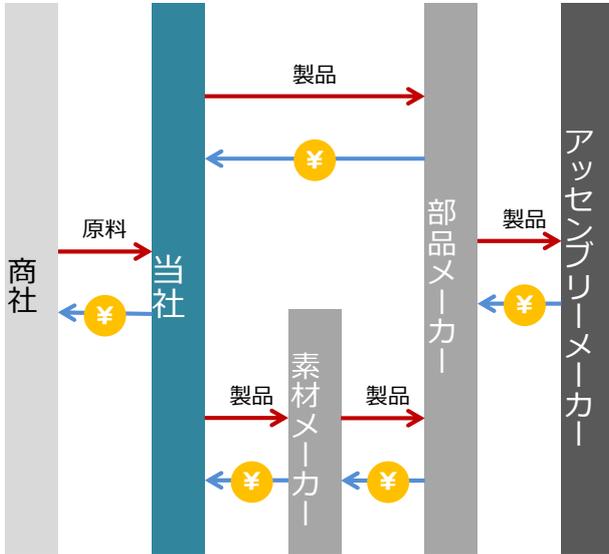
- 製品自体の耐摩耗性や精度の高さ
- 設計思想や生産体制に合った製品

Copyright © Fuji Die Co., Ltd. All Rights Reserved.

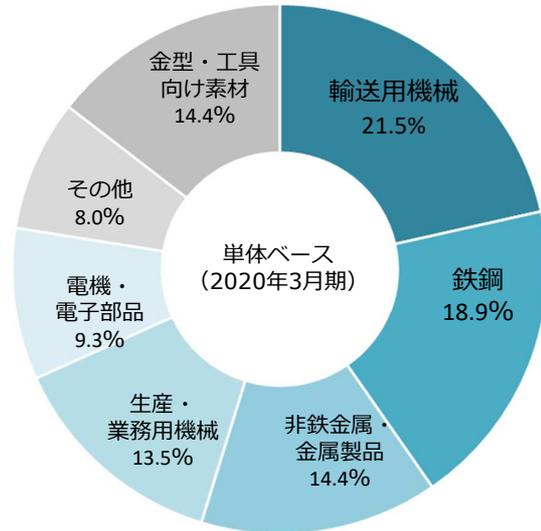
9

- 少量多品種の顧客毎の**カスタムメイド**の**受注生産・直接販売**を行う
- 取引社数は**約3千社**、**業種も幅広い**
- 特定の系列に属さない**独立系**のため様々な業界、企業と取引が可能

事業フロー



顧客産業分類別売上構成比率



Copyright © Fuji Die Co., Ltd. All Rights Reserved.

10

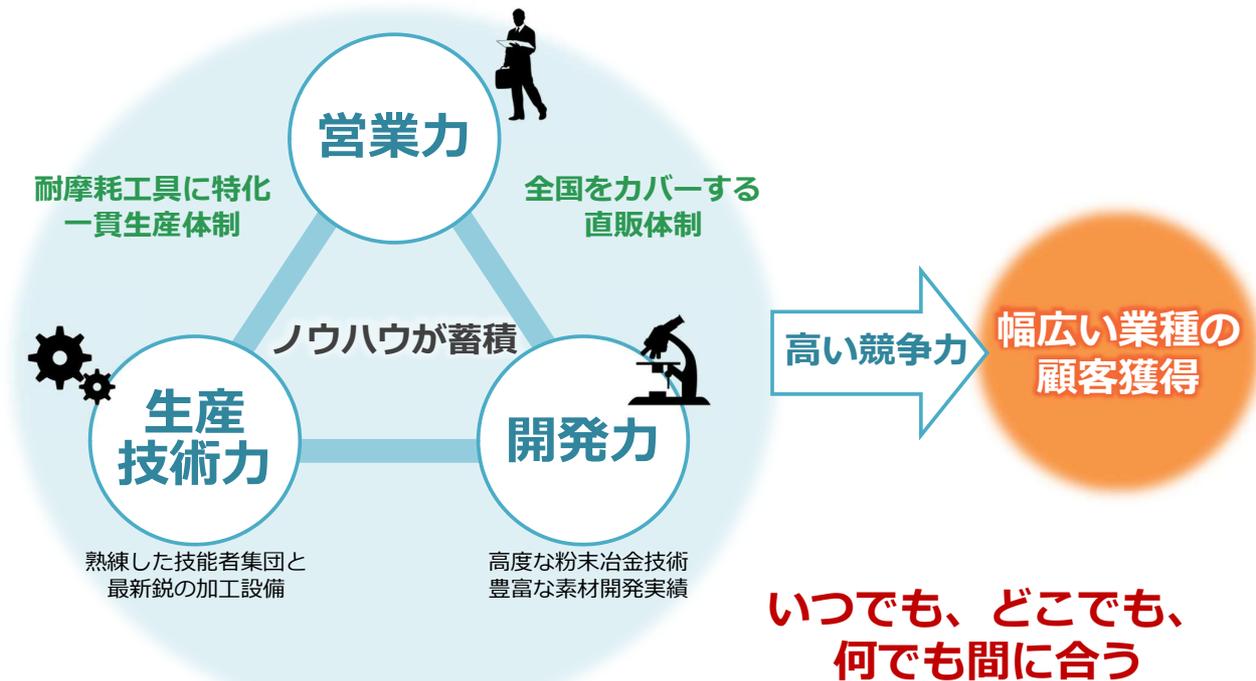
- 設計から原料粉末の調製、焼結、機械加工、製品検査まで**一貫した受注生産体制**
- **高度な粉末冶金技術と加工技術**
- 様々なオーダーに対し**柔軟に対応**が可能 (多品種・少量生産)



Copyright © Fuji Die Co., Ltd. All Rights Reserved.

11

- 開発力、生産技術力、営業力が相まって、高い競争力を創出

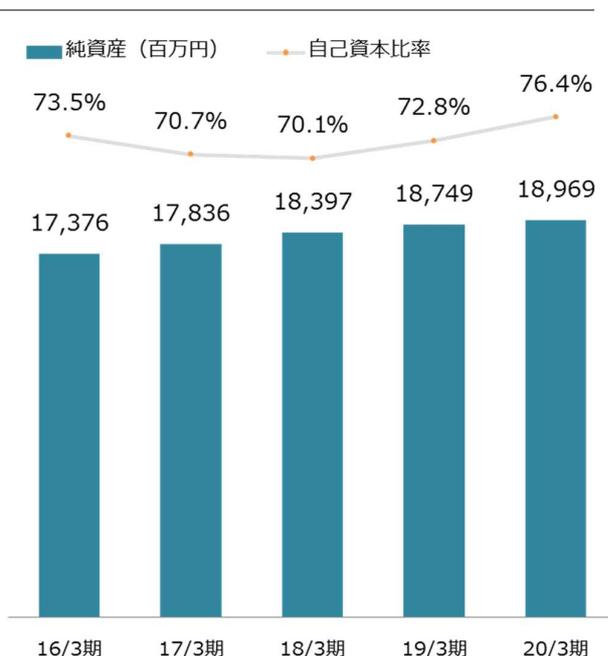


Copyright © Fuji Die Co., Ltd. All Rights Reserved.

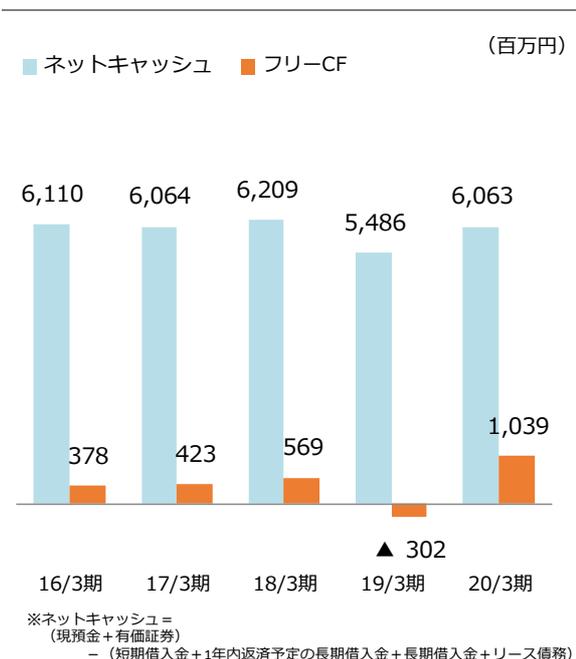
12

- 創業以来現在に至るまで**黒字経営**を継続し、高い自己資本比率を維持
- 手元資金も潤沢

純資産・自己資本比率推移



ネットキャッシュ残高・フリーCF推移



Copyright © Fuji Die Co., Ltd. All Rights Reserved.

13

	page
I : 会社概要	2
II : 当社の特長	6
III : 2021年3月期 第2四半期 業績概要	14
IV : 2021年3月期 業績見通し	20
V : 成長戦略（中期経営計画）	24
VI : 参考資料	32

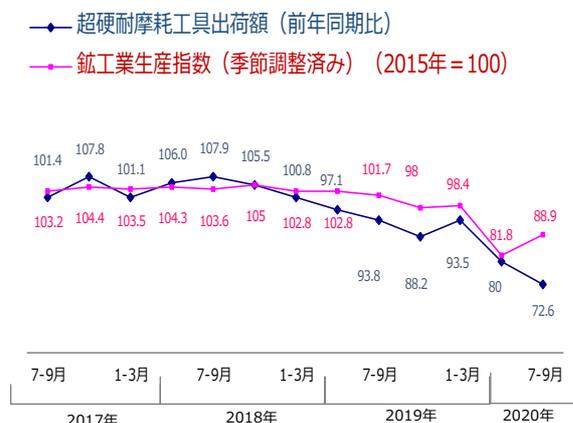
2021年3月期・第2四半期累計期間の総括

連結売上高	6,755 百万円	（前年同期比 76.0%）
連結経常損失	▲122 百万円	

- 新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、お客様への訪問自粛や展示会等の中止により十分な営業活動を行うことができず、売上高は超硬製工具類、金型類、及びその他の超硬製品においても全体的に低調となり、前年同期を下回った。
- 利益面においても売上高減少の影響が大きく、損失となった。
- 製品別では、溝付ロールや粉碎工具が堅調に推移したが、世界的な自動車需要の落ち込みにより、超硬製の自動車部品生産用金型、自動車部品生産用の超硬金型素材、鋼製やセラミックス製の自動車部品生産用金型、混錬工具、引抜鋼管なども低調だった。

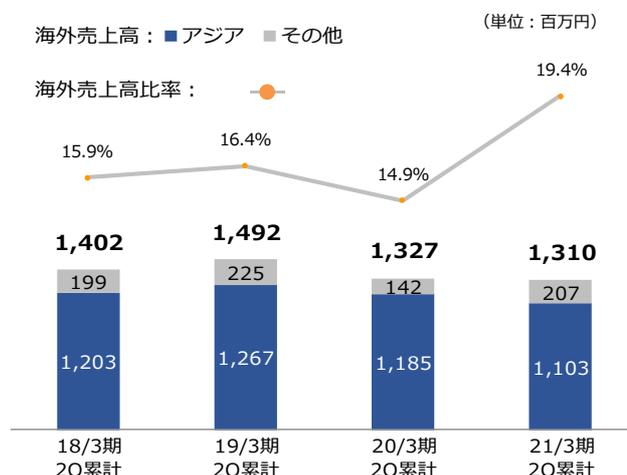
- 鋳工業生産指数の2020年7-9月期は、新型コロナウイルスの影響で大きく下落した4-6月期から若干回復気配も、超硬耐摩耗工具出荷額は低下傾向のまま推移
- 海外売上高は前年同期とほぼ横ばいで推移も、国内売上高が大幅に減少したため海外売上高比率は相対的に上昇

超硬工具出荷額推移



出所：日本機械工具工業会 『超硬工具統計』
経済産業省 『鋳工業指数』

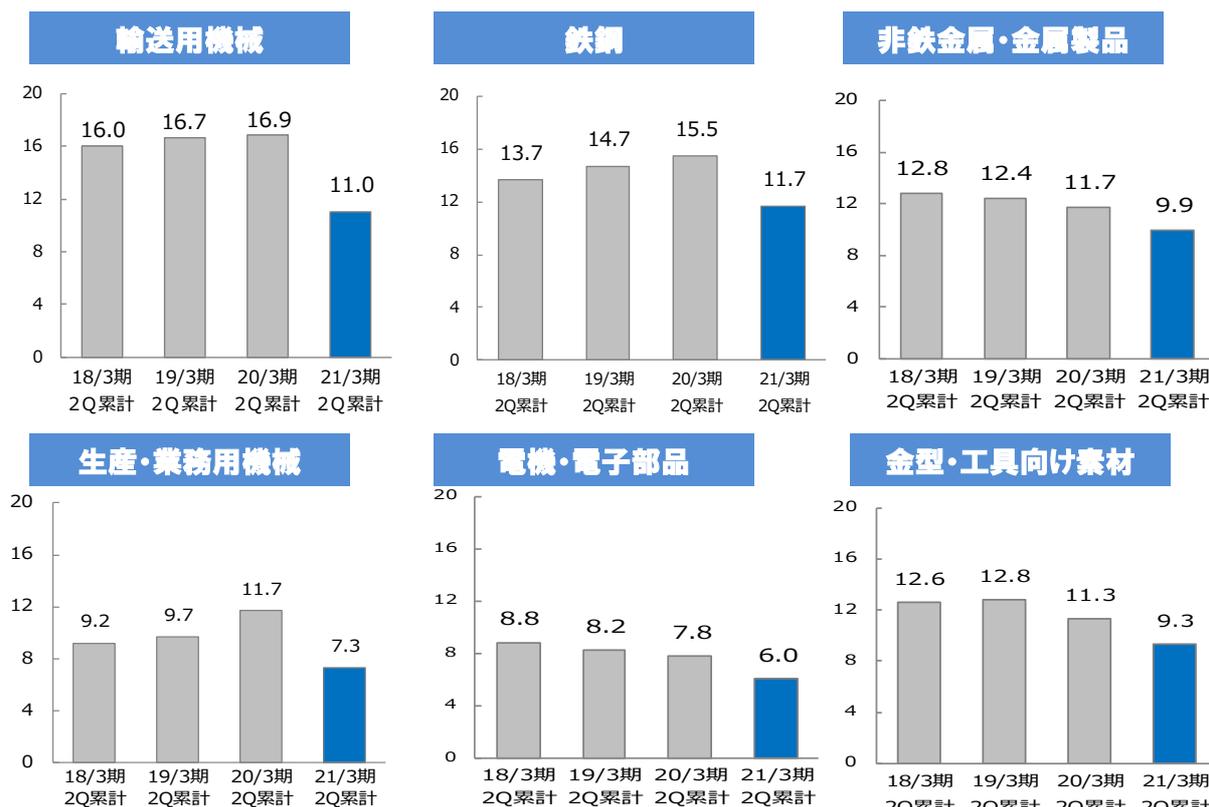
海外売上高・海外売上高比率推移



Copyright © Fuji Die Co., Ltd. All Rights Reserved.

●顧客産業分類別状況（単体ベース、売上高）

（単位は全て億円）



Copyright © Fuji Die Co., Ltd. All Rights Reserved.

(単位：百万円、下段は構成比)

	2020年3月期 第2四半期累計	2021年3月期 第2四半期累計	
			前年同期比
売上高	8,885 (100.0%)	6,755 (100.0%)	76.0%
超硬製工具類	2,547 (28.7%)	1,947 (28.8%)	76.5%
超硬製金型類	2,399 (27.0%)	1,661 (24.6%)	69.2%
その他の超硬製品	1,929 (21.7%)	1,586 (23.5%)	82.2%
超硬以外	2,009 (22.6%)	1,559 (23.1%)	77.6%
売上総利益	2,045 (23.0%)	1,173 (17.4%)	57.4%
販管費	1,549 (17.4%)	1,402 (20.8%)	90.5%
営業利益又は営業損失	495 (5.6%)	▲229	—
経常利益又は経常損失	601 (6.8%)	▲122	—
親会社株主に帰属する 当期純利益又は純損失	416 (4.7%)	▲83	—

主な増減要因

▷売上高

・超硬製工具類：溝付ロールの販売が堅調に推移。超高压発生用工具や熱間圧延ロールの販売が低調。

・超硬製金型類：光学素子成形用金型、自動車部品生産用金型の販売が低調。

・その他の超硬製品：自動車部品生産用金型の超硬金型素材の販売が低調。

・超硬以外：鋼製やセラミックス製自動車部品生産用金型の販売が低調。

▷営業利益又は営業損失

新型コロナウイルス感染症拡大の影響等により売上高が減少したことにより減益。

▷親会社株主に帰属する当期

純利益又は純損失
営業損失と同様に売上高減少の影響により減益。

Copyright © Fuji Die Co., Ltd. All Rights Reserved.

18

連結貸借対照表サマリー

(単位：百万円、下段は構成比)

	2020年3月期末	2020年9月期末	
			前期末比増減
流動資産	13,619 (54.9%)	11,923 (52.3%)	▲1,695
固定資産	11,195 (45.1%)	10,870 (47.7%)	▲325
資産合計	24,815 (100.0%)	22,793 (100.0%)	▲2,021
流動負債	4,115 (16.6%)	2,720 (11.9%)	▲1,395
固定負債	1,730 (7.0%)	1,723 (7.6%)	▲6
負債合計	5,845 (23.6%)	4,444 (19.5%)	▲1,401
純資産合計	18,969 (76.4%)	18,349 (80.5%)	▲619
負債・純資産合計	24,815 (100.0%)	22,793 (100.0%)	▲2,021

主な増減要因

▷流動資産

受取手形及び売掛金 ▲848
現金及び預金 ▲422
電子記録債権 ▲243

▷固定資産

機械装置及び運搬具 ▲213
建物及び構築物 ▲156

▷流動負債

支払手形及び買掛金 ▲589
未払金 ▲456
未払費用 ▲386

▷純資産

利益剰余金 ▲563

Copyright © Fuji Die Co., Ltd. All Rights Reserved.

19

	page
I : 会社概要	2
II : 当社の特長	6
III : 2021年3月期 第2四半期 業績概要	14
IV : 2021年3月期 業績見通し	20
V : 成長戦略（中期経営計画）	24
VI : 参考資料	32

新型コロナウイルス感染症の影響及び対応

営業

- 受注環境
 (既存) 電子・半導体分野が先行して回復。当社主要分野である輸送用機械も第2Qより徐々に回復してきており、受注環境の改善がみられる。
 (新規) 商談活動状況が改善されてきたことを受け、展示会（リアル及びWEB）に積極的に出展。開発製品のPRを再開することで、新規顧客への対応を強化。
- 国内、海外の状況
 (国内) 訪問や面会が禁止されている顧客もあり、コミュニケーションの維持、技術交流会を、オンライン商談システムにて対応。
 (海外) 国によって施策が異なるため、国内と同様に個別対応を継続中。

生産

- 国内外各工場の生産状況、勤務対応
 当社の国内全工場は通常どおり稼働中。ただし3密回避のため時差出勤、人員分散配置、集合教育の一時取り止め等を継続実施中。
- サプライチェーン（原材料調達、物流等）への影響と対応
 ・新型コロナ禍の影響で諸外国がロックダウンの処置を行ったが、原材料は国内の原料仕入メーカーと当社内の備蓄量を合わせて、必要十分な量を確保。
 ・物流による遅延の影響は今のところ見られないが、頻繁に情報収集を行い状況変化への対応を準備。

その他

- 勤務形態、その他対応
 ・通勤時及び職場での感染予防策として在宅勤務と時差出勤の推進、公共交通機関による通勤の抑制、出社時の検温、職場での業務スペース分散、全従業員へのマスク配付等を実施。
 ・県外移動を伴う国内出張や海外出張を原則禁止。
 ・在宅勤務者の情報システム、メールへのアクセス整備、Web会議等の活用を推進、業務品質の確保に必要なIT環境の見直しと拡充を実施。
 ・事業継続に不安のない財務健全性を維持（高い自己資本比率、潤沢な手元資金）。

- 2021年3月期の連結業績計画は、新型コロナウイルス感染症拡大による世界的な自動車需要の落ち込みに伴う自動車関連の市況悪化の影響等により、前年同期比で減収減益の見通し
- 経済活動の再開に伴い足下の景気動向は個人消費を中心に持ち直しの動きがみられるが、国内外の経済に与える影響は不透明

(単位：百万円、下段は構成比)

	2020年3月期	2021年3月期	
		計画	前期比
売上高	17,426 (100.0%)	13,820 (100.0%)	79.3%
営業利益	875 (5.0%)	▲180	— %
経常利益	1,008 (5.8%)	30 (0.2%)	3.0%
親会社株主に帰属する 当期純利益	625 (3.6%)	270 (2.0%)	43.2%
設備投資 (※1)	695	290	41.7%
減価償却費	1,122	1,030	91.8%

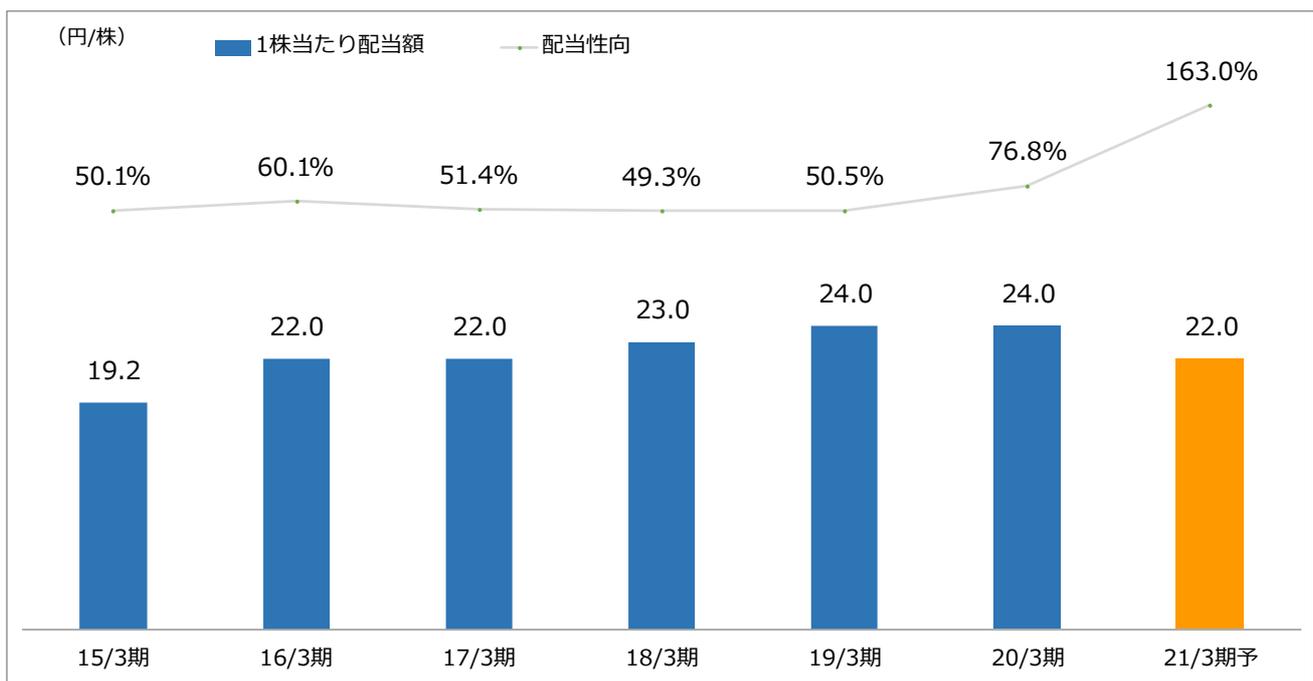
※有形固定資産分のみ

Copyright © Fuji Die Co., Ltd. All Rights Reserved.

22

株主還元方針

連結配当性向を50%を目処に適切な利益配分を実施



Copyright © Fuji Die Co., Ltd. All Rights Reserved.

23

	page
I : 会社概要	2
II : 当社の特長	6
III : 2021年3月期 第2四半期 業績概要	14
IV : 2021年3月期 業績見通し	20
V : 成長戦略（中期経営計画）	24
VI : 参考資料	32

成長戦略（中期経営計画：2018-2020年）

－ 事業環境見通しと対処すべき課題 －

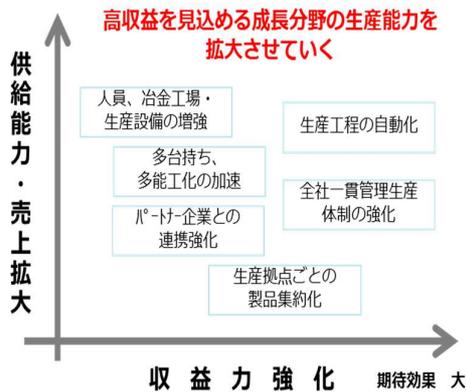
持続的な成長に向けた、当社を取り巻く事業環境見通しと対処すべき課題
（※計画策定時点）



- 生産体制・生產品種の**最適化**
- IT化による各種**情報の一元化**
- 生産の**自動化**や**省人化**などの生産工程の効率化

《生産部門の施策》

【成長力・収益力強化のための施策と期待効果マップ】



生産効率10%以上の改善施策

▼主な施策 IT（情報技術）と生産体制構築による生産効率向上

	Step 1	Step 2	Step 3
IT関連	・工程管理システムによる生産日程の最適化	・生産情報の一元管理（図面・加工データ）	・IoT技術の導入による生産計画の最適化
生産関連	・生産体制再構築（生産効率化・環境対応）	・自動化、省人化ライン配置 ①：検査自動化ライン ②：MCライン ③：異工程連動 他	・自動化ラインの横展開 ・工場集約 ・子会社対応の拡大

※Step1・Step2並行展開

- 生産体制・生產品種の**最適化**
- IT化による各種**情報の一元化**
- 生産の**自動化**や**省人化**などの生産工程の効率化

《生産部門の効率化への取り組み》 -1

導入工程	時期	内容	効果 (作業時間・稼働)	画像
●MCライン (加工設備)	2020年度・2Q	アーム付きロボットを導入し、セット治具を充実させ、MC機の稼働時間向上	2018年度比 月稼働時間 102時間増 (166 → 268H/月)	
●製造加工ライン	2020年度・2Q	コンサルティングを活用した製造現場の効率改善に取り組む	2019年度比 モデル職場を対象とした改善により、対象職場の機械稼働率が向上。 ・職場A：120.0% ・職場B：118.7% ※2019年度を100%としたときの改善割合 モデル職場の改善を継続実施する。	

- 生産体制・生産品種の**最適化**
- IT化による各種**情報の一元化**
- 生産の**自動化**や**省人化**などの生産工程の効率化

《生産部門の効率化への取り組み》-2

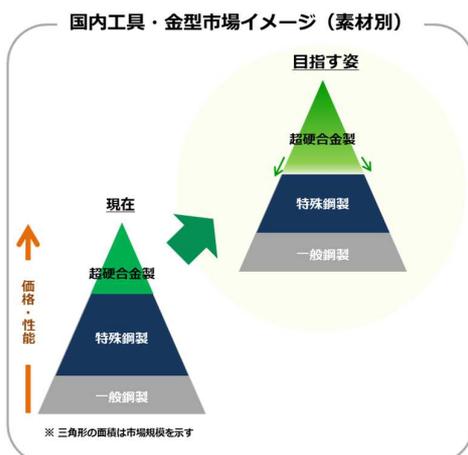
導入工程	時期	内容	効果 (作業時間・稼働)	画像
● 高精度加工工程 (1)	2020年度・2Q	自動車関係の高精度金型の取り込み ・試作・評価確認 ・量産化への課題抽出	・試作品の客先評価良好 ・金型超硬化に向けて加工条件を確立し、生産を継続中。 ・対象製品の生産金額増加 (2018年度比 164%増)	
● 高精度加工工程 (2)	2020年度・2Q	半導体装置関係の高精度製品の製造を手作業からロボットによる自動加工に変更し省人化を図る。	・製品の自動加工を開始。 加工条件最適化にて、対応力増加中。 ・作業要員2人から1人に削減可能となった。 (省人化が進展)	

Copyright © Fuji Die Co., Ltd. All Rights Reserved.

既存重点市場の維持拡販を行いつつ、成長分野の主要サプライヤーを目指す

既存重点市場の維持拡販

- ・半導体関連、缶器、ステアリング工具、レンズ金型などを重点市場と定め、既存顧客の深堀、同業への横展開を含め、維持拡販を図る
- ・超硬合金の性能の高さ（硬度、製品寿命、変形しにくさ等）を改めて訴求し、従来特殊鋼が用いられていた工程で超硬合金製の工具・金型への転換を提案し、新規案件を開拓

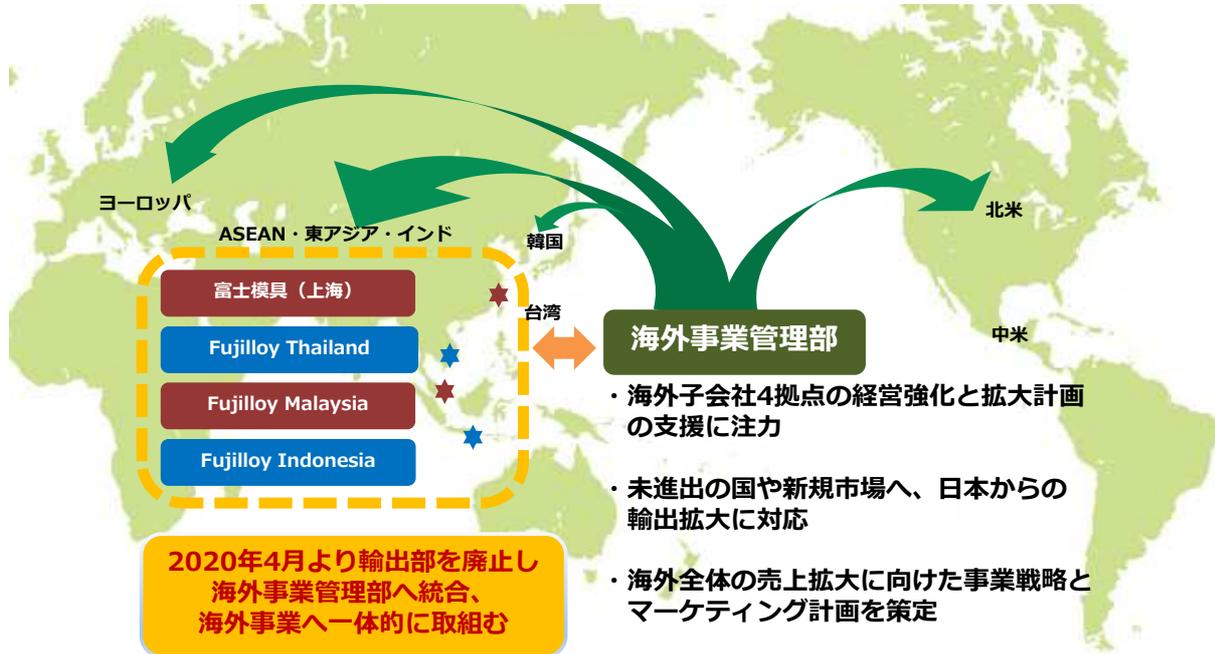


営業力の強化

1. 営業部門の再編
 - ・地域の市場規模に応じた人員配置
 - *北九州営業所の移転：2019年8月
2. ソリューション営業の強化
 - ・顧客の新製品立上げ支援
(製品開発初期からの協業、積極的な試作品投入)
3. 営業員の能力開発
 - ・階層別教育の拡充（外部講習、e-ラーニング等）
 - ・タレントマネジメントシステム導入による個の力量把握と向上支援
4. IT活用による一層の業務効率改善
 - ・SFA（営業支援システム）やオンライン商談システムを活用した緊密なコミュニケーションと顧客/技術ナレッジの共有化の促進
 - ・社内の各種文書のデジタル化推進
5. 各種媒体への企業PR促進（展示商談会、WEB展示会、WEB広告、新聞・専門誌への出稿 他）

Copyright © Fuji Die Co., Ltd. All Rights Reserved.

- 当社グループの持続的成長を維持していく為に、海外子会社の生産能力増強と日本からの直接輸出増の両輪で売上拡大を図る



新製品・新技術の開発強化

分野	概要	素材	優位性	進捗状況	販売時期(予定)		
					2019年	2020年	2021年
次世代自動車	①モーター用抜き金型	①超硬合金	①材料技術	①販売中 +新材料開発中	→	→	→
	②過給器用機械部品	②NFメタル	②材料技術 (特許取得)	②評価用サンプル での対応	→	→	→
	③電池部品用高精度金型	③超硬合金	③加工技術	③販売中	→	→	→
医療・化粧品	①分析デバイス用成型金型 (マイクロ流路)	①超硬合金	①加工技術	①評価用サンプル での対応	→	→	→
	②錠剤ソール用金型	②鋼	②加工技術	②技術確立中	→	→	→
環境・エネルギー	①半導体向け高熱伝導用素材	①Cu-Dia	①材料技術 (特許取得)	①販売中	→	→	→
	②高圧合成法を用いた触媒	②水素・酸素発生触媒	②材料技術 (特許取得)	②評価用サンプル での対応	→	→	→
その他	①航空機エンジンタービン 加工向け工具	①セラミックス	①材料技術 (特許取得)	①販売中	→	→	→
	②高熱膨張レンズ用金型	②Cr基合金	②材料技術 (特許取得)	②販売中	→	→	→
	③高圧発生装置用素材	③超硬合金	③材料技術 (特許取得)	③販売中	→	→	→
	④超硬3D造形素材	④超硬合金	④材料技術 (特許出願)	④技術確立中	→	→	→

	page
I : 会社概要	2
II : 当社の特長	6
III : 2021年3月期 第2四半期 業績概要	14
IV : 2021年3月期 業績見通し	20
V : 成長戦略（中期経営計画）	24
VI : 参考資料	32

企業理念・大切にしている価値観・長期ビジョン

企業理念

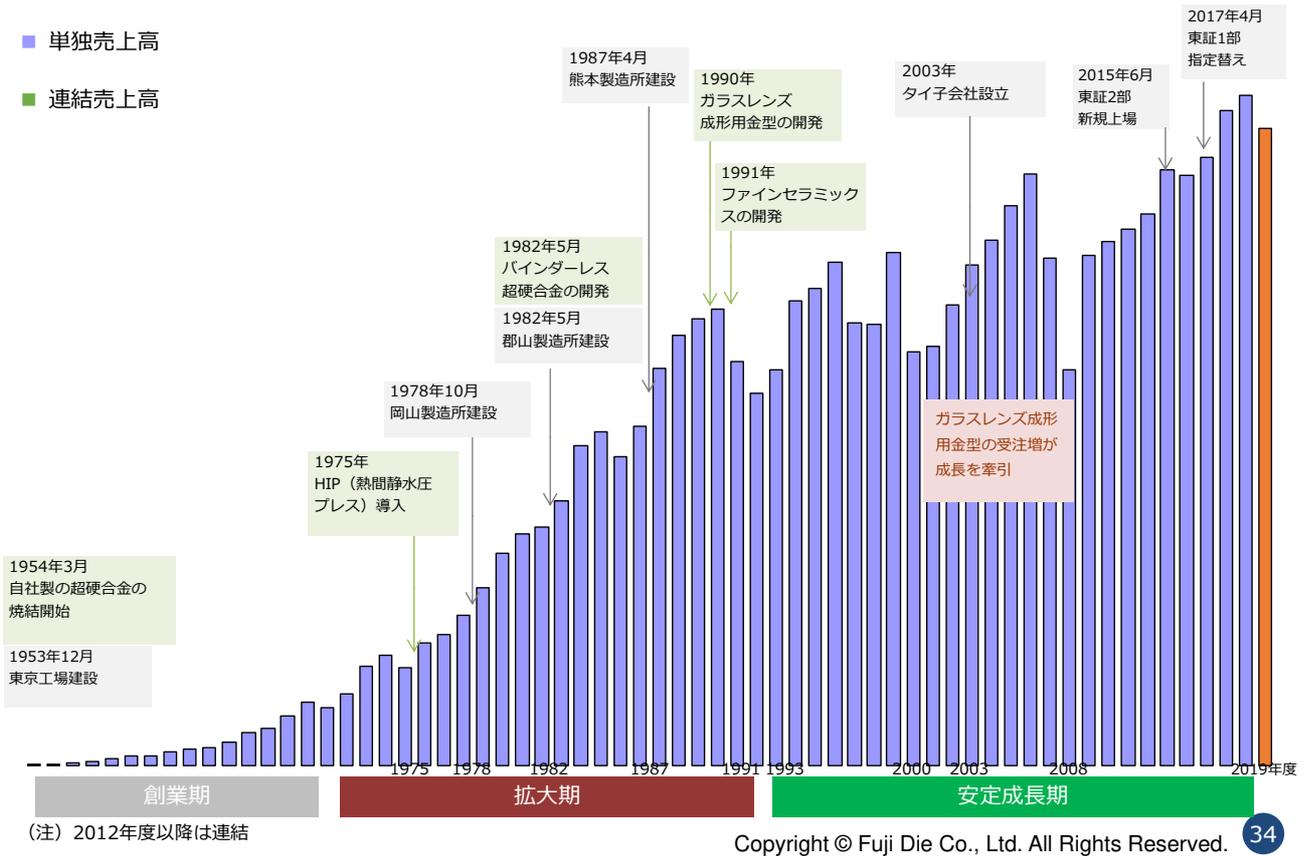
- 事業を通じて広く社会に貢献し、幸せな人を育てる
- 人間尊重、人間中心の経営

基本的な考え方（私たちが大切にしている価値観）

- 報恩感謝
- 和
- 創造と革新
- 誠実
- 質実剛健

長期ビジョン

- 世界のものづくり界のリーディングカンパニー
- 品性ある企業グループ並びに企業人



耐摩耗工具とは？（ダイスとプラグ）

- 超高精度の金属加工（塑性加工）を実現する工具・金型
- モノ作りのコアな工程における、生産性に直結する重要な部材
- 最適な工具・金型選びが、加工速度、精度に大きく影響

代表的な耐摩耗工具 ダイス・プラグ

ダイス・プラグは多くの製品の製造に用いられる

大型
油井管（石油、天然ガス掘削プラント用配管）
産業機械用リニア半導体製造装置用部品

丸型 ← 異型

小型
注射針
金、白金電気接点（電子部品、点火プラグ）

ダイス
引き抜く

パイプ
プラグ

パイプの内径を調整している

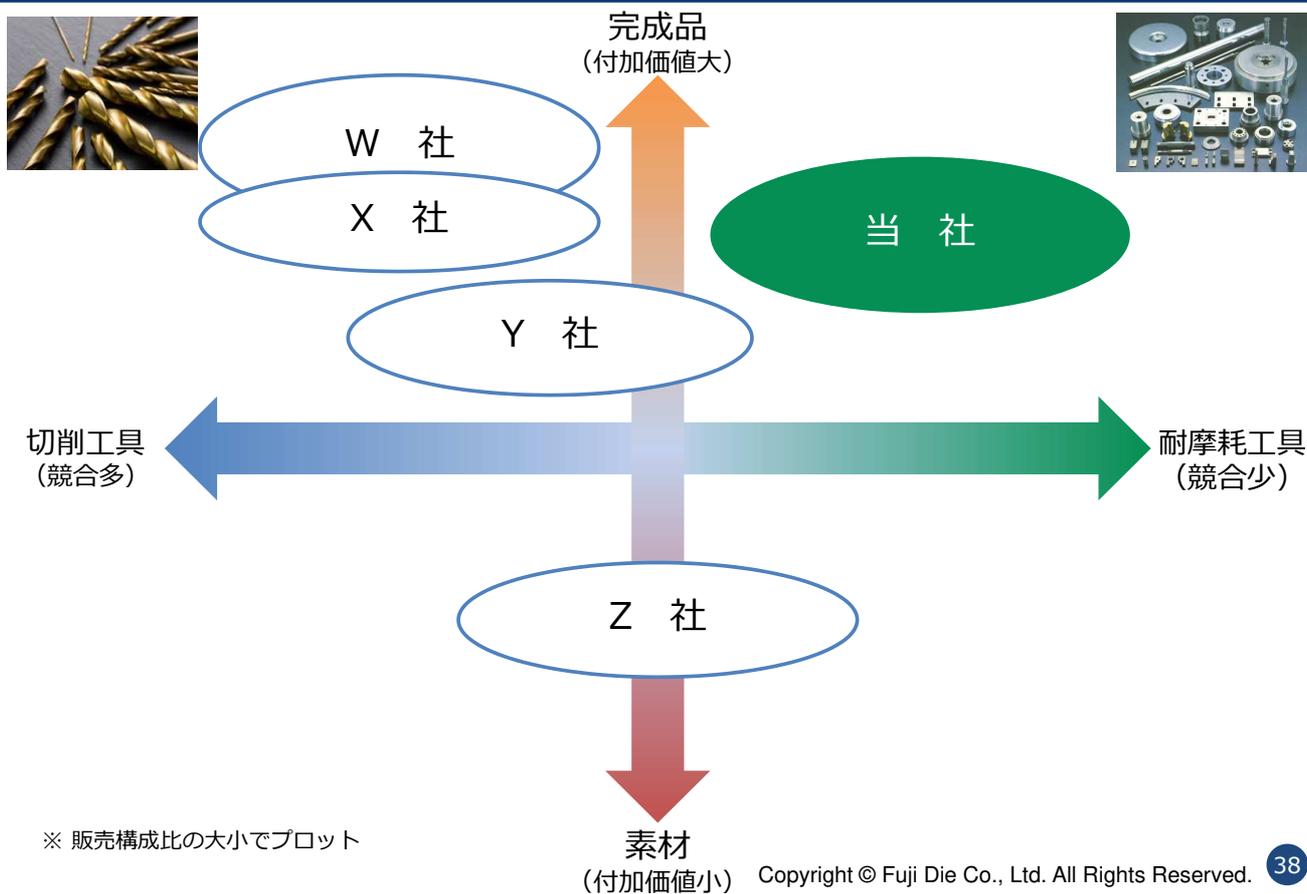
ダイス
パイプの内径を決める工具

プラグ
線材、棒、パイプ等の外径を決める工具

【ダイス・プラグの使用例】

当社は単純形状から複雑形状、超小型から大型まで対応可能な技術力・設備を有しており国内トップシェアを誇る

Copyright © Fuji Die Co., Ltd. All Rights Reserved. 35

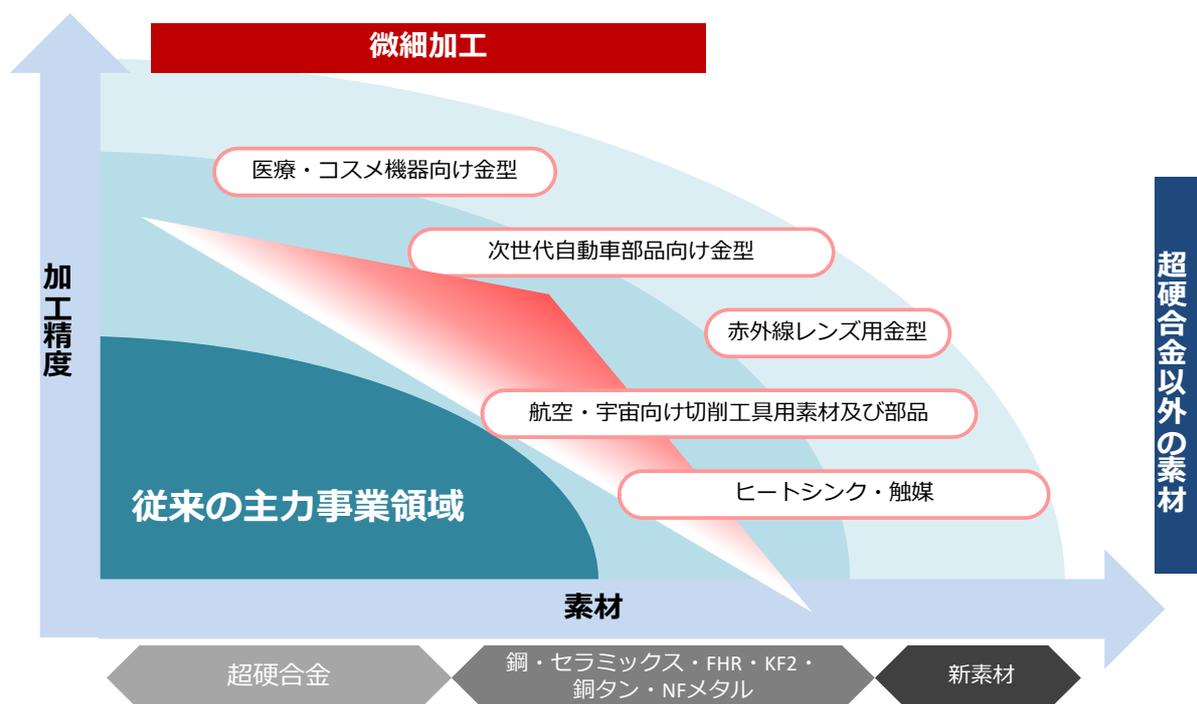


4

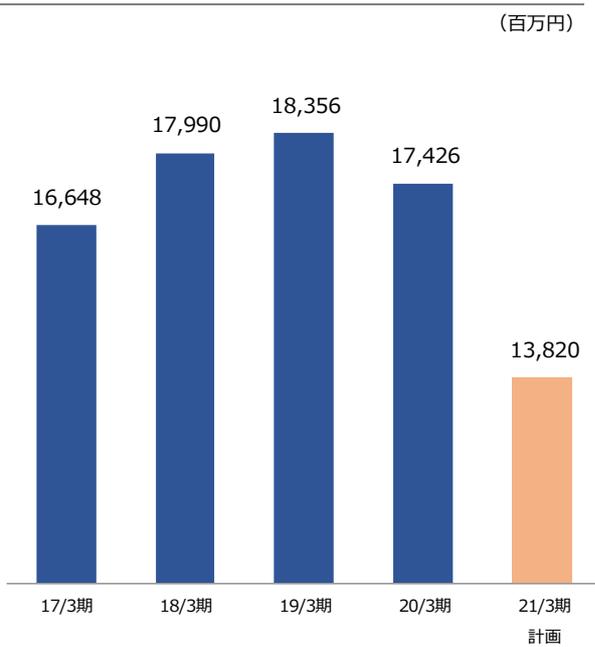
新製品開発・新技術開発

－ 中長期的成長に向けた研究開発の方向性 －

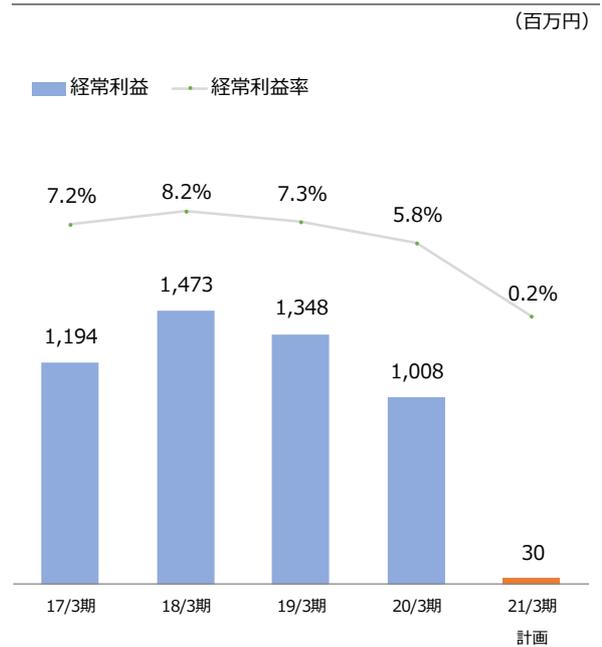
- 粉末冶金技術を駆使した**新材料**の研究開発を強化し、**耐摩耗工具以外**へ進出
- **超精密加工技術**を用いて研究開発を進展させ、**新しい産業分野**を開拓



売上高



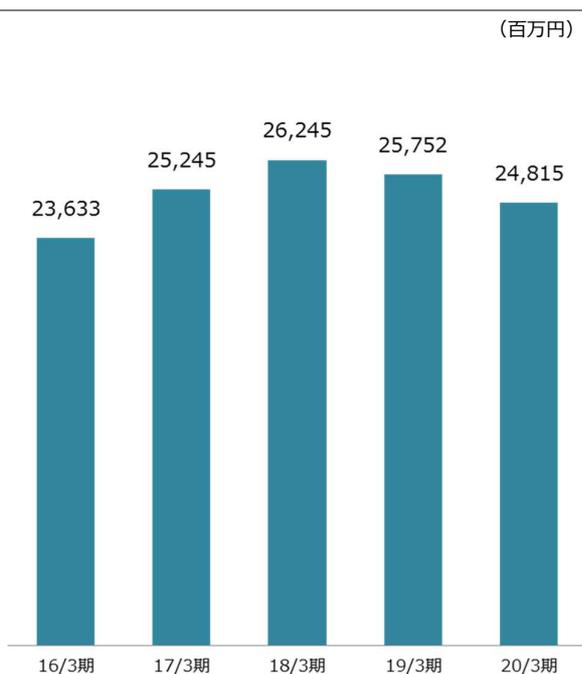
経常利益



Copyright © Fuji Die Co., Ltd. All Rights Reserved.

業績の推移 2/3

総資産

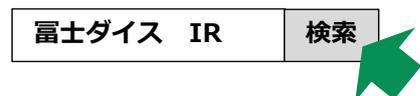


純資産



Copyright © Fuji Die Co., Ltd. All Rights Reserved.

当社ホームページを是非ご覧ください。
当社の製品（工具・金型）・技術、各種活動の情報を掲載しています。



スマートフォン、タブレット画面でも
QRコードからご覧いただけます



<ご提供している情報項目の例>

A 株主通信



B 経営成績



C 解説動画



免責事項について

当資料は、富士ダイス株式会社の現状をご理解いただくことを目的として、作成したものです。当資料に記載した内容は、一般的に認識されている経済・社会等の情勢および当社が合理的と判断した一定の前提に基づいて作成しており、経営環境の変化等の事由により、予告なしに変更する可能性があります。

また、当資料には見込み、予測およびリスクを伴う想定に基づくものがあり、当資料に記載されている内容とは異なる結果を生ずる不確実性(市場、金利、為替の変動といった国内外の経済状況等)が含まれております。今後、新たな情報や出来事等が発生した場合、当社は本資料の更新・修正を行う義務を負うものではありません。投資に関する決定は、利用者ご自身の判断でなさるようお願いいたします。

尚、情報の掲載には細心の注意を払っておりますが、情報の誤りや改ざん、データのダウンロード等で被ったいかなる損害についても、当社は一切責任を負うものではありません。